発行日　2022/9/8

議　事　録

件名　アパレル造形科デザイナーコース 教育編成委員会　管理No　9

日　時		2022年8月24日　14:00～16:00
場　所		東京服飾専門学校(ホール)　豊島区巣鴨1-19-7
出　席　者		一般社団法人 日本アパレル・ファッション産業協会　事務局長　境　泰志様 有限会社ビーシーコスチューム　代表取締役　太田　えりこ様 株式会社クレヨン営業本部人事部マネージャー　吉田　愛里様 ソーイングアサヒ株式会社　代表取締役　高橋 英一郎様 株式会社アズノゥアズ　執行役員　管理本部長　中村潤様 東京服飾専門学校 山下 節子(学校長)　中島　由紀子　リビ裕子　花澤　由里子　柳澤　沙織　ジョノーエロイーズ
欠　席　者		なし
概　要		1.次年度における各科カリキュラム、シラバスの配布と編成経緯、変更点、留意点について 2.次年度における産学連携、職業実践体験プログラムの実施内容調整
内容		①挨拶 ・教育課程編成委員会の学内位置付けと、教育内容向上へのお願い。 ・第9回 教育編成委員会の目的と議事項目 ②職業実践講座授業の実施途中結果 ・前回から指摘のあったプレゼン能力向上においては、パワーポイント使用なども含め強化を行っていますが、やはり繰り返しの練習だったり、ポートフォリオ(Macの授業で行う)の作成などの強化を行なっている。 ・自分のイメージを伝える手段としてのデザイン画(平絵)の授業時間数も増やし、スキルアップを行なっている。 ・授業を行う事により、会社、ブランドを知るきっかけや興味に繋がっている。 ・授業の中間にもチェックを行う事により、理解度がより深まるように行なっていく事により完成度をより高めていくように行なっていく。 ③今後の展望や問題点、課題 [株式会社クレヨン吉田様] ・自分の考えやイメージを伝えるプレゼン能力の高い人、SNS・デジタルツールを活用し発信出来る人が必要とする人材を育成してほしい。 ・オンライン授業も実施しつつ、対面授業も充実させてもらいたい。 ＊仕事では色々なお客様と対面で行なっていくため、社会に出た時にすぐに実践できるようにしてほしい。 ＊お客様との接客を行う際に、お客様の知識の方が上回ってしまうと困るので、色々な知識を持つことは大切。 ・若干名の採用を実施する予定になっていますので、学生達から見たブランドのイメージや印象なども是非参考にしていきたい。 ・実体験を色々積み重ねてほしい。

		・SNS・デジタルツールの活用を行い、オンラインショッピングを利用する人達が増える中、店舗の存在意義、接客販売が問われる時代ですが、オンラインではなくお店だからこそ提供出来るサービスが重要と考える。 ＊実際にはEC10％増、店舗20％減、洋服全体では10％減となっている現状がある。 ・最近は中々自分の考えやイメージを伝えられない、表現が出来ない人が多い、また自分の興味のないことへの関心度が低く、視野が狭くなりやすい人も多く、社会に出て働く上で、たくさんの事に興味を持ち、チャレンジしていく事が大切である。 ・社会に出て必要な知識、技術の習得はもちろんですが、コミュニケーション能力やプレゼン能力の高い人材が必要とされる。 [学校側] ・学生達にとってよりわかりやすく理解を深めるため、インテラクターボードを使用して学生には、一人一台のタブレットを貸し出す事により、手元で確認、復習、自宅においても視聴出来る。 ・授業のオンライン活用、プレゼンツールの利用 ・1年次は基礎部分を習得、2年次には各学科事でインターンシップ研修等を通して実践型を行ない、企業連携の中で業界の人材ニーズを把握しながら人材育成を行なっていく。 ・企業との連携はこれからも、学生達が実社会に出て行き実務を行なっていくにあたり、とても重要でより深めていく必要がある。 ・技術面においては反復する事により習熟度を上げていく事が重要である。 ・就活にあたり、プレゼンテーション能力の強化は不可欠になってくるため反復練習とポートフォリオなどの準備が必要である。 ④総括 引き続き、全学科において企業と連携したインターンシップ研修を実施。 企業理解、職種理解を深め、学生一人一人が自主的、主体的に学修に取り組み業界のプロとして活躍できる知識、技術、技量を身につけられるように育成をしていく。 これからの世の中の情勢を踏まえて、学校としてDXを推進、整備していく。 クラスルームなども積極的に活用していく。
		アパレルも洋服だけでなく、非アパレルの部分も総合的に考えて行っていく必要がある。 企業、新入社員、学生（若い世代）など全体で取り組みをし、アップデートを行っていかなければならない。
添　付　資　料		教科内シラバス、職業実践講座関係資料
決　定　事　項		
課　題　事　項		
次　回　日　程		2023.3
特　記　事　項		

	作成者
	中島